

玉名教育事務所の分析結果と今後の取組

1、成果及び課題

(1) 成果

○教科の調査の結果から

小学校では、国語が全国平均を上回った。小学校国語の「配当表に示されている漢字を正しく書くことができる」や、小学校算数の「一の位が0の2つの2位数について、乗法の計算をすることができる」ことなどは成果として表れており、誰一人取り残さない学びの保障の取組の成果と考える。また、中学校数学では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」が、全国平均を上回っている。問題を解く上での解決の見通しや方法は分かっており、主体的な学びを促す授業づくりの成果と考える。

○質問紙調査の結果から

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、児童生徒の自己有用感の向上には成果として表れている。
- ・「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか」や、「近隣中学校（小学校）と、教育課程に関する共通の取組または合同で研修を行いましたか」は、小・中学校は全国平均を上回り、教員の資質向上に関する取組の成果として表れている。

(2) 課題

○教科の調査の結果から

小学校の算数、中学校国語・数学・英語すべてで全国平均を上回ることはできなかった。特に、中学校の英語の「まとまった英文を読んで、その内容の概要や要点を捉える」や、中学校数学の「自然数の意味を理解している」などに課題があり、英語では単語力と既習文法の定着、数学では基本的な内容の定着など、今後も、誰一人取り残さない学びの保障を行っていく必要がある。併せて、小学校算数で「3割という割合」について、いくつかの具体例を考えたりすることに課題がある。

○質問紙調査の結果から

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイントとなる課題といえる。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、中学校では全国平均を下回っており、学習習慣の形成について課題がある。
- ・「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」については、「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合が、小・中学校ともに全国平均を下回り、授業での積極的な活用に課題がある。

玉名教育事務所の分析結果と今後の取組

2、今後の重点取組

- 「誰一人取り残さない学びの保障」
 - ・個に応じた指導・習熟度別指導の拡充
分かる喜びを実感させるために、授業の導入の工夫など、児童生徒が「学習したい」と自覚できる工夫をする。
 - ・定着確認の徹底
児童生徒が「わかった」「できた」を実感できるよう、9年間を見通した基礎力を精選、明確にし、身に付くまで学びやすい学力充実タイム等の質の向上を図る。併せて、家庭学習など学習習慣形成につなげる取組について各学校の取組状況の情報交換等を行いながら改善・充実を図る。

- 「教員一人一人の授業力向上に係る取組」
 - ・授業改善のポイントの明確化
授業の導入段階について、子供の「問い」が生まれるような具体的な提案や、問題の解答状況の分析を子供の側からの授業づくりに生かす取組を行うことで授業力向上を図る。
 - ・授業観察の習慣化とポイントの明確化
管理職による授業参観の充実。特に、導入の段階における指導を含め、「熊本の学び」推進プラン、アクションプロジェクトに基づいて指導を行う。
 - ・ICTの効果的な活用について、各学校での実践を交流する場を設けるなど、更なる取組につなげる。

※上記内容について、校長会での周知の他、学校訪問、学校支援訪問、学力向上重点支援地域事業などによる授業改善、中学校英語・数学担当者それぞれのオンライン会議等の研修を実施する。